

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

## 新春に想いめぐらすー 福音宣教

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤 牧人

小咄をひとつ。ゴルフ好きな人は多い。歩くということは健康にも良いとのこと。ある日、モーセとイエスと信徒がゴルフに興じていた。皆それ相応の腕前で、なかなか差が出ない。いよいよ最後のホールとなって、まずモーセが打った。球はいきおいよく飛んでいったがコースが悪く池に落ちてしまった。信徒はしめしめと心の中で喜んだ。次にイエスが打った。これも同様に池に落ちてしまった。信徒は小躍りしそうになった。そして、彼は落ち着いて打った。よく飛び、ボールはフェアウェイの真ん中に落ちた。歩きながら思った。「よし、これで勝った」と。

モーセは池の前に来て少し考えると、ゴルフクラブを池に降ろした。すると、池の水が二つに割れ、地が見えた。モーセは悠々と歩いて行って、打った。次にイエスが池の前に来た。そして何もなかったかのようにそのまま水の上を歩いて行って、打った。信徒は「ああ、やっぱりだ」と肩を落とした。

最近ゴルフに興味を持つようになりました。といってもゴルフをするというのではなく、ゴルフのスポーツ番組を見るということです。そのきっかけになったのは、石川遼という若者の活躍です。わたしは、「巨人・大鵬・卵焼き」と言われた時代にも育っているので、いわゆる強いものにあこがれるのかもしれない。もちろんただ強ければよいとは思ってはいませんが、その技術の素晴らしさを知るに付け、興味を増させられるのです。石川選手の活躍は、また見たくなる思いにさせます。

翻って考えてみると、また見たくなる、つまり関心を持たせる、関心を寄せさせるとはどういうことか、ということです。そしてそれが教会の働き、宣教ということを考えるとき、そのことが関係してはいないだろうか、ということです。

活躍するということは、人をそのことに関心を持たせ、また見たくなるようにさせるのではないのでしょうか。では、教会が活躍するというのはどういうことになるのだろうか。活躍とは活

## □会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加  
および1月20日以降)

- 1月
- 15日(金) 正義と平和・憲法プロジェクト
  - 18日(月) 管区審判廷事前準備会
  - 20日(水) 主事会議
  - 21日(木) ハラスメントに関するアンケート分析作業会(京都)
  - 21日(木) 人権・ジェンダー・女性担当者会(京都)
  - 22日(金) プレ宣教協議会実行委員会準備会
  - 25日(月) 礼拝委員会
  - 25日(月) ~ 26日(火) 文書保管委員会
  - 26日(火) ~ 27日(水) 正義と平和・沖縄プロジェクト(沖縄)
- 2月
- 1日(月) 正義と平和委員会
  - 4日(木) 宣教協働者招聘委員会
  - 4日(木) 57-9 常議員会
  - 5日(金) ~ 6日(土) プレ宣教協議会実行委員会
  - 8日(月) 年金委員会
  - 10日(水) 臨時主教会・日韓合同主教会(名古屋)
  - 11日(木) 中部教区主教按手・就任式(中部教区主教座聖堂)
  - 15日(月) 主事会議
  - 22日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト
  - 23日(火) 青年委員会
  - 23日(火) ~ 25日(木) 主教会(熊本)
  - 23日(火) ~ 25日(木) 管区共通聖職試験
- 3月
- 3日(水) 聖公会・ルーテル教会合同委員会
  - 3日(水) 聖公会・ローマカトリック合同委員会
  - 8日(月) 主事会議
  - 24日(水) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会
- <関係諸団体会議等>
- 1月12日(火) NCC平和憲法推進プロジェクト

き活きと躍動するということなのだろう。

教会の躍動とは、明らかに福音宣教だと思う。この姿が活き活きとしていれば、人は関心を持つのではないだろうか。教会はまさに福音を宣べ伝えるために存在しているのであると言えるのではないのでしょうか。福音を伝えることは、教会自身の本性に関わることです。そして、福音宣教の個々の働き手が、それぞれの場にあってそれぞれの仕方で躍動するとき、教会の「活躍」が見られるのではないのでしょうか。

それは一流になるということだけではないと思います。わたしは今年のクリスマス、ある教会に招かれて礼拝の司式の奉仕をしました。決して大きな教会ではありませんが、その信徒の一人が、毎週毎週礼拝に出席することが、わたしにできることです、と言われていました。そうさせているものは何かと考えるなら、そこにあるのは福音に生きる喜びなのではないだろうかと思います。教会を守り存続させるのは、このような方の存在でもあるということでは忘れないだろうと思います。

(前頁より)

- 1月26日(火) WCRP理事会
- 2月4日(木) 聖公会生野センター理事會
- 2月9日(火) キリスト教連合會
- 2月19日(金) NCC国際分かち合い委員会
- 3月9日(火) 東京都宗教連盟理事會
- 3月13日(土) NCC 宣教協議會

新しい年を、夢と希望と、そして抱負を持って迎えられたことと思います。今年もどうかよろしく願いいたします。管区事務所もその働きに励んで行きたいと思います。ことに今年は、5月には定期総会が、8月にはプレ宣教協議會が開催されることになっています。そのほかにも様々な宣教の働きがなされていくことと思いますが、神の国の実現に向かって、それぞれの場にあって、そしてユーモアを持って、その働きを意味あるものとしていきたいものです。

## □主事會議

第57総会期第16回 2009年12月14日(月)  
主な協議事項

### 1 重債務国開発援助に関して

以下の件を常議員会に提案することとした。

#### 1) USPG のプログラムへの資金協力

- ・金額：100万円×3年
- ・使用の対象・目的等：USPGのプログラム（人材育成、公衆衛生・医療、教育、正義・和解一人種・宗教間の争いの癒し、環境。対象国は主にアフリカ諸国）に資金協力する。

#### 2) フィリピン聖公会のマイクロファイナンス・プロジェクトへの資金協力

- ・金額：100万円(1回のみ)
- ・使用の対象・目的等：フィリピン聖公会内の人々が経済的に自立するための小額貸付制度のため

### 2 緊急災害支援募金に関して

「台湾の台風の水害」、「フィリピンの台風

の災害」、「スマトラ島沖地震の災害」、「サモア諸島地震と津波の災害」被災者援助のための募金は2,503,660円が集まり、配分について決定した。

### 3 平和宣教教育活動資金に関して

規程(案)を検討、常議員会に提案する。

### 4 NCC負担金に関して

総主事より、NCC負担金について説明を受けた。

### 5 ACOからの資金援助要請に関して

ACOより資金援助5件の要請を受けた。下記2件について意見を交わし、継続審議事項とした。

(1)2008年ランベス會議開催不足金(18万ポンド≒2,700万円)の充当のため

(2)ACO分担金の増額

### 6 TOPIK (=北東アジアの和解と共生プロジェクト)への協働に関して

大韓聖公会 TOPIKは練炭を1ヶ月5万個(約20万円分)を北朝鮮に送っている。こ

の働きに協働し、北朝鮮人道支援のために「アジア・太平洋地域平和・和解」資金より支援金として20万円を支出する。

第57総会期第17回 2010年1月20日(水)

主な協議事項

1 ハイチ大地震の緊急募金に関して

(1) ハイチ地震被災者緊急・復興支援のために「緊急災害援助資金」からとりあえず50万円を送金する。

(2) 教区・教会に募金を呼びかける。

2 宣教150周年記念募金の残金処理に関して  
継続協議事項とした。

3 ACOからの資金援助要請に関して  
下記2件について検討、継続協議事項とした。

(1) ACO 分担金の増額

(2) 2008年ランベス会議開催不足金(18万ポンド≒2,700万円)の充当のため

4 大斎克己献金の使途に関して

従来の国内伝道強化のため(1千万円)の使い途について見直しを行う。

5 アジア学院への支援に関して

2005年から2009年までの5年間、アジア学院の支援(@30万円×5年)をしてきた。当初の予定どおり、一旦終了することとする。

次回以降の会議

2010年2月15日(月)、3月8日(月)

□各教区

東京

・聖職按手式 1月30日(土)14時 聖アンデレ主教座聖堂 司祭按手:志願者 執事 ステパノ卓 志雄



†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ヨハネ堀江 清 (東京教区、退職)

2009年12月25日(金)逝去。(84歳)

## 《人 事》

### 東北

<信徒奉事者認可>

(盛岡聖公会)

(大館聖パウロ教会)

(小名浜聖テモテ教会)

(仙台聖フランシス教会)

2010年1月1日付

ペテロ阿部禧典、ルカ赤坂徹

クララ小田切光子、オーガスチン戸枝正樹、ヨセフ佐藤進、マルタ藤原久子、ヤコブ青山仁、マルタ田畑瑠美子

ヨハネ仁木克己、トマス末次正憲、ルツ関洋美

サムエル渡部正裕、サムエル山田信一、ヨセフ長井淳

### 横浜

執事 ジェローム村上守旦

2009年12月19日

司祭に按手される。

司祭 ジェローム村上守旦

2009年12月19日付

浦安伝道所牧師補の任を解き、同日付浦安伝道所副牧師に任命する。

### 中部

司祭 イサク伊藤幸雄

2009年12月2日付

可児伝道所管理司祭を命じる。

主教 フランシス森 紀旦

2009年12月31日付

退職を認める。名古屋聖マタイ教会管理牧師の任を解く。

司祭 ペテロ渋澤一郎

2010年1月1日付

名古屋聖マタイ教会管理牧師を命じる。

**京都**

セシリア大岡左代子 2010年1月1日付 日本聖公会聖職候補生に認可する。

**神戸**

司祭 ヨハネ芳我秀一 2010年3月31日付 神戸聖ミカエル教会牧師の任を解く。  
2010年4月1日付 姫路顕栄教会牧師に任命する。

司祭 ヨハネ角瀬克己 2010年3月31日付 神戸聖ヨハネ教会牧師の任を解く。  
2010年4月1日付 高松聖ヤコブ教会牧師および高知聖パウロ教会管理牧師に任命する。

司祭 マルコ藤井尚人 2010年3月31日付 姫路顕栄教会牧師の任を解く。  
2010年4月1日付 神戸聖ヨハネ教会牧師に任命する。

司祭 パウロ上原信幸 2010年3月31日付 米子聖ニコラス教会牧師および鳥取聖ルカ教会牧師ならびに境復活教会管理牧師の任を解く。  
2010年4月1日付 神戸聖ミカエル牧師に任命する。

司祭 バルナバ瀬山会治 2010年3月31日付 高知聖パウロ教会牧師および松山聖アンデレ教会管理牧師の任を解く。  
2010年4月1日付 米子聖ニコラス教会牧師および鳥取聖ルカ教会牧師ならびに境復活教会管理牧師に任命する。

司祭 オーガスチン小林尚明 2010年3月31日付 福山諸聖徒教会管理牧師の任を解く。

司祭 ダビデ林 和広 2010年4月1日付 倉敷伝道所管理牧師および福山諸聖徒教会管理牧師に任命する。

主教 アンデレ中村 豊 2010年3月31日付 高松聖ヤコブ教会牧師および倉敷伝道所管理牧師の任を解く。

司祭 バジル八代 智 2010年4月1日付 学校法人八代学院への出向期間を延長する。期間2010年4月1日～2012年3月31日まで

司祭 アンデレ松尾常雄 2010年4月1日付 主教アンデレ中村豊管理のもとで、呉信愛教会において、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)

**■各教区財政担当者連絡協議会を開催**

2年に1回の各教区財政担当者連絡協議会が2009年12月12日(土)に東京牛込聖公会聖バルナバ教会で開催されました。出席者は各教区財政担当者と植松誠首座主教、三鍋裕主教(横浜教区主教)はじめ管区関係者を合わせて計24名でした。

今回の会議には植松首座主教も出席され、

各教区の財政の実情をお聞きいただきました。

ところで、2008年7月より財政主事を三村様より引き継ぎ1年半しか経過していないため、いろいろ皆様にご迷惑をお掛けしていることをお詫び申しあげます。28年近く横浜教区の財政部長をやっておりましたので、初めて管区の財政主事としてどのようにしたらよいのか迷いまし

た。

ここ数十年は、各教区財政担当者連絡協議会は2年に1回開催されていますが、以前は不定期で、各教区の都市で開催されたこともありました。

今回もそうですが、教役者の待遇の格差が大きな問題になっています。横浜教区の代表として出席していたころは他教区の情報を得て教区に反映することが出来、大変に役立ちました。

今回の協議会では、三鍋主教より教役者給与検討デスクの報告がありました。前回の第57定期総会で可決された「日本聖公会教役者標準給与表の作成並びに教役者給与支給支援システム」の実施に向けて、各教区財政担当者も検討をする必要があると思います。

また、11教区の教役者給与の支払い方法に違いのあることが改めてわかりました。7教区が給与の支払いにプール制を採っています。プール制とは教区が各個教会から給与分担金を集め、教区から教区規程にしたがって教役者に給与を支払う方法です。それに対して4教区が援助・補助制を採っており、基本的に各個教会が直接牧師に給与を支払います。

今回の協議会は議題が多く、各教区の質疑応答に時間が足りなかったと思われます。参加者からのご意見もあり、今後の開催の仕方についてはこれまでの2年に1回の開催を毎年開催にするか、あるいは1泊2日の開催にするか財政主査会で、検討したいと思います。

(財政主事 尾崎 茂雄)

---

## アジアの子どもたちの人身売買に関する聖公会協議会（報告）

—あなたの姉妹／兄弟、娘／息子はどこにいるのか—

中部教区 執事 金 善姫

11月2日から6日まで、香港で「アジアの児童の人身売買に関する協議会」(Consultation on Human Trafficking with a Focus on Children in Asia)が開かれ、日本聖公会の一人として参加する事が出来ました。

聖公会の国連 (UN) 事務所の主催とカンタベリー大主教と香港聖公会の後援で開かれたこの協議会には、聖公会から派遣された国連大使であるヘレン・グレース氏 (Hellen Grace Akiwii-Wangusa) の呼びかけによって、15ヶ国の聖公会からの成功事例の報告者と各国の現状の報告者、そして、ユニセフ (UNICEF、国連児童基金)、ストップ子ども買春の会 (ECPAT) のような専門家たち40名が集まりました。

この協議会の目的は、「アジアの児童の人身売買」への問題提起と成功事例を共有し、草の根の働きを連携させ、将来にはもっと大きな規模の人身売買に関する協議会を準備する事です。

参考資料として配られた米国の法務省の『人身売買報告書』によると、日本は国家の政策として問題点は多いが改善のために努力している国として2等級に指定されています。

日本はアジアにおいて移住労働者や援助交際、児童ポルノ、児童観光、そして戦争中の慰安婦問題など多くの問題を抱えている国であることを再確認しました。

協議会は2日の夕食から始まり、3日にはオリエンテーション、ユニセフの報告、ミャンマーの人身売買の国連仲介機関 (UNIAP) の報告に続き、各国の現状の報告がありました。そして、4日には成功事例として教会の働きの報告と物語を聞くことができました。5日には午前中に現場のフィールドトリップとして香港聖公会で運営している福祉館を訪問し、午後には国際ストップ子ども買春の会 (ECPAT International) のマーク (Mark Peter Capaldi) 氏による提案と聖公会国連大使によるグルー

プ討論が行われました。

特に、成功事例としてタイのシリラット司祭 (Rev. Sirirat Pusurinkham) が人身売買の被害を受けた子どもたちと共同生活をしながら、バラバラになっている心をつなぐ縫い物をしながらおしゃべりしながら癒されていると語りながら、一つの種が地に落ちて、太陽と雨によって大きな実を結び、鳥たちのような命が育まれる事のように、少数の人々の働きが神様の恵みによって多くの愛を結び、多くの子どもたちの命が育まれるという希望と信仰は聞く人々の心を熱く感動させました。

聖公会が人身売買防止のために出来ること、世界的に多くの信徒がいて、社会的に大きな影響力を持っている組織として、社会の正義と平和のために働く人として、連携し、お互いを励まし、声を合わせる事。日本の状況を聖公会のネットワークを通して共有し、日本の政府に働

き掛けることの可能性をも知らされました。

毎朝、メイリン司祭 (Rev. Dr. Maylin Biggadike) による神学的考察の時間がありました。オープニング神学的考察の時に、主がカインに「お前の弟アベルは、どこにいるのか。」という問いに、「わたしは弟の番人でしょうか」というカインの答えから、神様が私たちに「去年人身売買された120万の子どもたちはどこにいるのか」という問いに私たちはどう応えられるかという問いがありました。私たちの姉妹/兄弟、娘/息子が尊い命を奪われている状況への神の問いに私たちはどう答えられるのかと考えさせられました。

最後に多くの人々と広いネットワークを通して協働できることを願っています。そして、私もその一員として導かれましたことに感謝し、嬉しく思っています。感謝!




---

昨年150周年記念礼拝の際にオーストラリア聖公会パース教区ロジャー・ハーフト (Roger Herft) 大主教が広島を訪問されました。とても印象に残ったようで、訪問の感想をお願いしたところ、快くお引き受け頂きました。(日本語訳 渉外主事・八幡眞也)

## 原爆の地、広島を訪ねて

私にとって今回の日本訪問は初めてであり、広島を訪ねることはとても大切な事であった。広島復活教会牧師小林司祭とご家族に歓迎して頂いたことに感謝します。

活気に満ち近代的な広島の街ではあるが1945年8月6日8時15分の出来事を思い起こさせる雰囲気を感じた。私が平和公園の原爆記念館を訪問した際に気になったのは見学に来ている児童の賑やかな声であった。この興奮した甲高い声を聞くと本当のところ、私自身は迷惑に思い気が散った。何故ならば私の記念

オーストラリア聖公会 パース教区主教  
大主教 ロジャー・ハーフト

館訪問の理由は、原爆により一瞬の内に命を落とした多くの人々の事を静かに思い起こすためであったからである。しかし良く考えてみると、私が経験したこの光景は、まさに原爆が投下される前の状況そのものではないかという思いがある。大人は職場へ行く途中であり、子ども達は制服を身に着け弁当箱を抱えて登校中であり、仲間同士で楽しく会話をしていた。まさにその時に「平和達成のため」という理由で、悲惨な結果をもたらす原爆が投下されたのであった。

消えてゆく飛行機の飛跡、全てを破壊する

まばゆい光一目に入る全てを溶かしてしまう高熱、数キロメートルにわたる測り知れない破壊と死—今でも子ども達に悪性の影響を及ぼすきのこ雲とその破壊力は想像を絶するものです。

心の中でこの事を静かに思い、涙がこぼれ、心が掻きむしられ、表現できない悲しさ、燃えるような腹立たしさ等が私の反応でした。聖オーガスチンの言葉をこのときに思い起こしました。「信仰には2面性がある。人間の犯す過ちで代表される世の中に存在する怒りとキリストを通して世界が変わりうるという希望である。」

戦争の犠牲者や戦争がもたらした心の傷を負った人たちのために祈った。このような残虐行為がもたらす憎しみを心にしまい込んでいる人達のためにも祈った。見学を通して学んだこのような暴力行為がもたらした結果から立ち直り、心を癒すにはとてつもない時間とそのため  
の努力が必要であると感じた。

母国オーストラリアに帰国後、私は広島に於ける経験や感じた事を語った。その際の多くの会衆の反応は、私の期待しているものと異なっていた。自分の考えを変えようとしな  
い人たちの心を私は傷つけたのかもしれない。人々は戦争の事を怒るように繰り返し語った。戦争を終

わらせる唯一の手段が原爆投下であったとする、西欧諸国の判断を心が高まって正当化しようとする人の気持ちが判らないでもないが。この事を知って、私は真の意味で戦争は終わっていないと感じた。戦争をしても真の勝者は存在し得ない、即ち人類全てが敗者である。傷跡を世代を超えて残し伝え、全ての人類が脅威を抱くだけである。

8月6日原爆投下により多くの人々の命が奪われ、(広島復活教会の) 前身の降臨教会は周辺の建物と一緒に一瞬の内に全壊した。その後教会が復興し、復活教会と改名された。改名の真の意味、敵同士であった人々が友人になり、希望を持って生きて行く事ができる許しのある世界が実現する事を願って。日本聖公会はこの熱い希望を世界中にまた、全聖公会に発信している。

神の創造されたものが、神の意思と異なったものになってしまったことに対する怒りに、人々は鈍感になってしまったのかも知れない。また、世界平和の実現のため、なすべき務めをきちんと実行することなく、安易に妥協したり自己満足で十分であると考えているのではないだろうか。



2010年2月7日 ハンセン病問題啓発の日

「ハンセン病問題への理解が深まるための祈り」

慈しみ深い神よ、み子イエス・キリストは病気のために差別された人々を深く憐れみ、み手を差し伸べて癒されました。キリストに倣って生きる者とされたわたしたちは、一人ひとりが大切にされて生きる社会を築こうと願い求めます。ことにハンセン病を患ったために社会から見捨てられ、苦渋の人生を生きなければならなかった人々の苦しみを思います。これまでに、この苦しみに関心を寄せず、また差別する社会を改める働きをしてこなかったことを思い、懺悔いたします。どうか、すべての人々が、この病気の事実、また回復者の現実など、ハンセン病をめぐる問題を理解することによって、み心にかなう社会を建設することができますように、多くの苦しみの中にある人々の友となり歩まれたみ子、わたしたちの主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

(2010年1月 管区人権問題担当者作成。2010年2月代祷表に掲載したものは内容に変更があります。)

## 自然災害被災者援助の献金

皆様から頂いた献金及び管区の緊急災害援助金から下記の様に被災関係者に送金しました。

○台湾の台風・水害 8月発生 台湾聖公会へ	161,154 円
○フィリピンの台風・水害 9月 フィリピン聖公会へ	769,273 円
○サモア諸島の台風・津波 9月 オーストラリア聖公会経由で現地へ	865,609 円
○スマトラ島沖地震 9月 WCRP/NCC 経由で	707,624 円

現地関係者からは各々送金確認と献金に対する感謝の手紙を頂いています。皆様のお心遣いに本当に感謝致します。

### 〈その他の送金〉

○アジア学院の活動支援のために	300,000 円
○タイ・バーンサバイ (AIDS 発症者のシェルター) へ	100,000 円
○パレスチナ子どものキャンペーンへ	110,000 円
○エリザベスサンダースホームへ	50,000 円
○受苦日信施金をエルサレム教区へ	581,045 円

(入金が遅くなる教区があるために通常年末に送金します)

### 絵本『世界一のパン』の読書会と原画展

本紙「管区事務所だより」243号(12月刊)で紹介したルポ絵本『世界一のパン ～チェルシーバンズ物語』の読書会と原画展が、東京・赤坂のカナダ大使館で開催されることになった。80年前にカナダ聖公会が信州の小布施町に建設した結核療養のための新生療養所(現・新生病院)に働くカナダ人看護士ミス・パウロから、チェルシーバンズの作り方を習った岩崎小弥太さんが、苦心の末に本場の味を再現するまでの努力を描いた絵本。小布施を舞台に、カナダと日本の心の交流が美しく記される。絵本の文章には英訳も添えられる。岩崎さん(86歳)は聖公会信徒。

読書会 2010年3月23日(火) 16:30—17:30

原画展 2010年3月16日(火)～30日(火)

詳細は本書の版元・<sup>ぶんや</sup>文屋まで照会されたい。電話 026-242-6512



日本聖公会管区事務所ホームページ: <http://www.nskk.org/province/>  
 ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。  
 comm-sec.po@nskk.org 広報主事(鈴木)宛て